

<2023 年、新年挨拶>



代表理事：連健夫

JCAABE 会員の皆様、明けましておめでとうございます。当団体は**良質な建築、美しいまちづくりを目指す社会改善型**の一般社団法人として設立 6 年目を迎えました。

当団体の認知も拡がり、様々なところからご依頼、ご相談をいただくようになってきました。文部科学省に採択された「まちづくりファシリテーター養成講座事業」は 2 年の実施を経て、①「建築系のためのまちづくり入門」が学芸出版社から出版され、②講座設置校は 6 校に増え、合同授業や行政の参加が生まれ、③オンラインによる社会人・学生への講座が設置される等、ネットワークが拡がってきています。文化庁事業の 2021～22 年度「カイロ旧市街の持続可能な保護策のための事業／住民参加のまちづくり」では、オンラインによって現地建築家や専門家へ**まちづくりファシリテーター講座**を行っています。

これらの活動において、**様々な形で会員の参加、支援**が行われています。高等教育機関におけるまちづくりファシリテーター養成講座では、特別講義、クリティークの参加、フィールドワークのアドバイス等の支援が行われています。カイロ旧市街の保存まちづくり活動では、当会員がオンラインレクチャー、住民ワークショップのアドバイスに関わっています。

他団体の提携・連携活動において、「一般社団法人リファイニング建築・都市再生協会」、「NPO 都市住宅とまちづくり研究会」とは情報交換と共に、講演会、見学会の会員へ継続的紹介が行われるようになってきました。JIA 関東甲信越支部まちづくり委員会との勉強会の共同開催も実施しています。昨年「知的生産者選定支援機構」と連携記念シンポジウムを行い、当団体の「設計コンペ・プロポーザル相談室」と連携して**公共、民間における発注者支援の下地**ができました。

当団体は、**建築・まちづくりの専門性を表示する資格とそのための研鑽**を主軸としておりますが、この専門性を明らかにすることは、発注者や住民の自主的活動における判断材料の提供や、行政における**専門家派遣制度**の拡がりの中で、今後ますます大切になってくると考えています。その意味で、認定まちづくり適正建築士、ADR 調停人の資格の輪を広げていくことは、日本が成熟社会に向かう中で大切な運動とも言えます。次回の認定まちづくり適正建築士セミナーは 3 月 25 日 26 日にオンラインで実施されます、まちづくりに興味のある建築家、建築士にお声かけいただければ幸いです。

会員間における対面での懇親やコミュニケーションはコロナ禍で難しい状況ですが、その改善において、今年度は是非、実施したいと思っております。この一年、**皆様にとって意味ある年**になることを心から願い、新年のご挨拶とさせていただきます。